

生駒市立鹿ノ台小学校 校長室から H22.5.13

しか小だより No.1

学校便りで自己紹介しましたが、4月から赴任しました井岡弘人です。地面にしっかりと足をつけ一步一步目標に向かって生きる子どもたちを育てるために職員一丸となってがんばりますので、保護者や皆様方のご支援・ご協力をよろしくお願いします。また、家庭訪問にご協力ありがとうございました。今後も担任と密に連絡を取っていただきまますようお願いいたします。



さて、入学式から早1ヶ月が過ぎ、今週からは1年生も全日授業となりました。少しゴールデンウィークの疲れが残る子どももいるようでしたが、毎朝元気にあいさつをしてくれています。今週から、内科検診そしていろいろな検診が続き、来週末からは社会見学が始まります。

4/12に3年生が校区探検に出かけたときの写真です。どこでしょう？答えはこのしか小だよりのどこかにあります。



**明日14日(金)は、12:45から育友会総会
1:50から学習参観です。ぜひお越しください。**

職員紹介 平成22年度の担任並びに担当を紹介します。

校長	井岡 弘人	教頭	藤林 鉄彦
1年1組	西井 雅子	しかのだい1	西本 優子
1年2組	森 和美	しかのだい2	山中 和代
1年3組	新谷 愛加	家庭専科	赤坂 久仁子
2年1組	田中 真理	音楽専科	乾井 康子
2年2組	好村 嘉子	養護	植田 美紀
2年3組	田淵 紀子	初任者指導	岡田 喜彦
2年4組	中西 貴子	日本語指導	森田 真優美
3年1組	大島 すみ子	事務	藪野 麻利
3年2組	森田 衣菜	事務	尾田 さざり
3年3組	金 秀勇	校務	大麻 晴孝
4年1組	伊豆 佳幸	特別支援支援員	金辻 多津子
4年2組	永原 智子	情報	長峰 孝輔
4年3組	林田 光子	ALT	Abu Bah
5年1組	佐々木 康友	英語サポーター	安井 いづみ
5年2組	川瀬 恵美	図書館司書	浜田 幸子
5年3組	柏木 良二	初任者研修派遣	遠藤 夏江
6年1組	巳野 直之	給食補助	谷原 静代
6年2組	大久保 智子	学びのサポーター	中川 佳洋
6年3組	藪田 達哉	スクールカウンセラー	坂元香予

上の表は本校職員以外の人たちも入っています。様々な分野で専門とする人たち(学びのサポーターは学生)が本校教育に関わっています。

平成22年度 鹿ノ台小学校の教育目標 「自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、たくましく生きる子どもの育成」

- <本年度の指導の力点>
- 1 伝え合う力の育成**
遊びや学習などすべての教育活動を通じて、達成感を味わうことによって自分のよさを知り自分を大切にすることを育むとともに、自分の思いを人に伝える力をつけながら互いに相手を大切にすることを育み、命の大切さを学ばせる活動を推進する。
 - 2 体力づくりの推進**
校庭を芝生化することによって外遊びを推進し、いろいろな遊びや運動を体験することによって体を動かす喜びや運動する楽しさを味わわせる。そして、自ら運動に親しむ意欲と態度を育成することを通して、子どもの体力向上とともに、危険回避能力、コミュニケーション能力を養う。
 - 3 わかる授業づくり**
全ての教科の土台となる国語・算数を中心に各教科の教材・教具、指導方法を工夫し、子どもがその時その時のわかる喜びを積み重ねることによって各教科が好きになり、自ら意欲的に生き生きと活動する授業を創造する。そして、その成果を教職員みんなで共有しながらより発展・継承させていく。

5月のめあて 楽しい給食にしよう

算数・理科・英語
来年度からの学習指導要領本格実施に向けて、昨年度から算数・理科の授業時数も内容も増えています。また、外国語活動(英語)は、本校では、3・4年で年間12時間、5・6年で年間25時間する予定です。なお、3・4年は全時間数、5・6年は半分の時間数をALT(ネイティブスピーカー)と経験豊かな地域ボランティアが授業を支援しています。

校内スケッチ 5月



もともとツバメの巣ですが、冬にツバメがいなくてスズメがちゃっかりその巣を利用して子育てをし始めた頃、ツバメが戻ってきて追い出しにかかります。巣の中にひなスズメがいる場合はひなスズメのいるあたりを巣の下の外側からつついて穴を開け、下に落とします。そして、修復してまた子育てを始めるそうです。この時期、校舎のひさしの下に落とされたスズメのひなが見つかります。鳥インフルエンザの心配から子どもたちには、さわらないで先生に知らせるように言っています。生き残ったヒナは元気になるまで用務員さんが育ててくださっています。

校区探検の答え
 左上:善修寺 右上:木蓮寺公園
 左下:素戔嗚(すさのお)神社
 右下:美鹿の台のマンホール



ものあれこれ
(私の身の回りにあるものを見直してみます)
 かれこれ60年前に祖父が初孫の誕生を喜んで街の絵描きさんに頼んで描いてもらったそうです。郡山の町中で鯉のぼりを揚げるスペースもなく、この掛け軸が端午の節句を祝っていました。今、あらためて見ると昔の講談社の絵本のようなのどかな感じがするとともに祖父の期待の大きさにびっくりします。なお、この初孫は私ではありません。